

日仏文化学院 パリ日本人学校



令和6年度学校だより 第6号 令和6年7月12日 発行 パリ日本人学校 校長 伊藤 博

1学期終業式 ～64日間に充実の日々～

パリオリンピックの開催により、64日という例年になく短い1学期が終



了しました。短い中にも充実したに見られました。校長からは、式で次のような話をしました。

- ① 短かった1学期をしっかりとふり返り、成果と課題を明らかにして、2学期に活かしてください。
- ② 100年ぶりのパリでのオリンピックとパラリンピック。開催国にいる幸せを感じて楽しんでください。
- ③ 夏休み中の体調管理に気を付けて、2学期の始業式に元気な顔で再会しましょう。

また、本日でパリ日を去っていく二十数名の仲間へのエールとして「パリ日の絆」という話をしました。転学する皆さんの、次の学校での活躍を心からお祈りしています。

【代表の言葉】※紙幅の関係で、一部省略している部分もあります。

代表の言葉 小学部1年1組 KA 「しょうがくせいになったよ」	代表の言葉 小学部4年1組 SY	代表の言葉 中学部2年A組 KS
<p>わたしは4がつにしょうがくせいになりました。おねえちゃんがいるからどんなことをするのかだいたいわかっていました。でも、じぶんがやってみるととてもたいへんで、つかれてかえりのバスのなかでねてしていました。1ねんせいの1がつきはたくさんのはじめてがありました。むずかしいこともあったけどいっしょうけんめいがんばりました。じがきれいにかけるようになりました。ボール投げもじょうずになりました。2ねんせいとたくさんあるいてサンカンタンいけのこうえんにいきました。はくちょうやくジャクにあえてとてもうれしかったです。2がつきは、クラスのおともだちのかずがすくなくなってしまうけど、みんなで、ちからをあわせてがんばります。</p>	<p>一つ学年が上がって四年生になると、学習が難しくなりました。算数では、分度器の使い方がむずかしくて苦うしました。だから、家で練習をして、だんだん角度をよむことができるようになりました。2学期の算数もたくさん練習して、得意になりたいです。また、一学期は運動会がありました。運動会のソーラン節で、ぼくはリーダーをやりました。三年生のおもんにソーラン節の動きが伝わるようにうまく説明して、カッコいい動きのイメージを見せました。運動会当日は、きんちょうしたけれど、おおきな声を出せて、みんなで動きをそろえておどることができてとてもうれしかったです。2学期は、パリ日祭があります。その発表の部で、ぼく達四年生はげきをやります。みんなできょうかしてカッコいいげきにしたいです。そして、お客さん達に楽しんでもらえるようにがんばります。2学期も行事がいっぱいありますが、低学年のお手本になれるようにがんばります。</p>	<p>私にとって、今日はパリ日最後の日なので、パリ日にきて学んだこととお話します。まず一つ目は、ポジティブな思考をすることです。中一の春、私はパリ日に来ました。当時のクラスは男子が11人、女子が3人でした。そんな中、私は女子と仲良くなれるかなど不安を抱いていました。学校が始まって最初の頃は、うまく会話が弾まず、ぎこちない空気の中で過ごしていました。私は「正直あまり楽しくない」「学校に行きたくない」と感じるようになりました。でも、毎日一緒に過ごして、お互いの事を知っていくうちに「意外と楽しいかも!」と思うようになりました。振り返ってみると、私はお互いの事を知らうとせず、楽しくないと思いついてしまっていたのです。楽しいと感じてからの学校生活は笑顔が増え、なんでも前向きに物事を捉えられるようになりました。二つ目は、人を頼ることの大切さです。二年生になって後輩ができ、担任の先生からは、自分の事はもちろん、周りを見て行動できるようになることが大切だと教わりました。私は、一年生や三年生に何ができるのか、クラスをよりよくするにはどうすべきかと考えるようになりました。考えてしまうあまり、運動会表現の実行委員の時には、みんなをうまくまとめられず涙を流したときもありました。しかし、悩んだときには先輩が寄り添ってくれて、たくさんのアドバイスをくれた中で、「いつでも頼ってね」と言われたときは、心が軽くなりました。私は本当に悩んでいるとき、ひとりて抱え込んでしまうことが多いので、時には人を頼ることが大事だと、改めて感じました。また、先輩に頼ってばかりではなく一年生の先輩として頼られる人になりたいなと思いました。約一年半、パリ日で過ごして学んだことはたくさんあります。それは、私たちがこれから社会に出て生きていくために必要なことを教えてくれました。九月からは、新しい環境に行き、様々なことにチャレンジします。ここで経験を生かして、習い事の新体操では個人演技で全国大会出場を目指します。勉強面では、フランス語を習得して今よりもっとフランスでの生活が楽しめるように努力したいと思います。</p>

小学部5・6年生体験学習大きな成果とともに終了 ～充実した体験活動展開!～



【主な体験活動】

サイクリング、カヤック、
オリンピイド(アーチェリー・ディスクゴルフ・チェックボール)、アクロブランシュ、カタマラン、
ミニアチュール散策、
宿舎の夜レク 等

小学部5・6年生の体験学習が行われました。昨年度はロワール川方面の施設を使用しましたが、今回は学校から約15分という、至近のサンカンタン池の湖畔にある施設での実施でした。こんなに身近にある施設ながら、たいへん高度でダイナミックな数々の体験ができました。主な活動は上のとおりです。体験を通じて、5、6年生の絆が深まりました。失敗をすぐに修正できるところが5、6年生の素晴らしいところです。最上級生として、そして、次期最上級生として、今回の成果と反省を活かして、2学期にさらに活躍をしてください。

日本舞踊鑑賞会実施 ～日本の伝統文化に触れました!～



パリで日本舞踊の講演会のため来仏されている、日本舞踏家の扇寿栄之丞(せんじゅえいのじょう)様をはじめ、4名の方にご来校いただきました。日本舞踊の「鶴亀」「大薩摩」「元禄花見踊り」「京人形」などを鑑賞した後、「祇園小唄」の体験やメタバース体験などもさせていただきました。

日本でも、本格的な日本舞踊を鑑賞できる機会は少ないため、貴重な日本文化体験の機会となりました。今回、5、6年生の体験学習と重なってしまったため、全校児童生徒の皆さんが鑑賞できませんでしたが、またどこかで機会を見つけて鑑賞できるとよいですね。

ありがとう! M先生・「ラ・ポンポネット」Sさん お別れ会

終業式の後、これまで本校のために長くお世話になっていた、英会話講師のM先生と、毎日お弁当を提供してくれた、ラ・ポンポネットのSさんのお別れ会を行いました。

M先生は10年間パリ日で英会話を担当していただきました。また、ポンポのSさんは、約20年間毎日お弁当を届けてくださいました。児童会・生徒会の代表が、お礼の言葉と記念品を贈りました。長い間パリ日のためにありがとうございました。



“学期末のサプライズ” ～psychic fever (サイキック フィーバー) による歌とダンス～



終業式の午後、パリで開催の Japan Expo2024 に出演中のサイキックフィーバーのメンバーが来校し、ダンス教室を開いていただきました。EXILE の弟分にあたる7人のボーイズバンドです。今回、ぜひ、パリ日の皆さんの前で歌とダンスを披露したい、校長先生からのサプライズという扱いで良いのでお願いします、との強い依頼を受けました。先生方で協議して、1学期の最終日、授業にも影響が少ない下校前の時間なら、ということでこの企画が実現しました。

最初に、午前中にパリで披露してきたばかりの曲を披露していただいた後、小学部・中学部に分かれて、振り付けの練習をしました。その後、全校で曲に合わせてダンスをしました。短い時間でしたが、1学期の最後を飾るエキサイティングな時間となりました。最後にメンバーの皆様全員とハイタッチをしてお別れをし、記念のバッジもいただきました。今回来校したメンバーは以下の皆さんです。(HP からの情報。マネージャーから許可済み。)

- ◆高橋剣(たかはし・つるぎ) 1997年(平9)4月9日、兵庫県生まれ。
EXPG 大阪校出身。メンバー最年長。振り付けや構成を作るのが得意。
- ◆中西椋雅(なかにし・りょうが) 1998年(平10)6月8日、兵庫県生まれ。
EXPG 大阪校出身。振り付け、構成、音源制作が得意。苦勞人。
- ◆渡邊廉(わたなべ・れん) 2000年(平12)2月8日、神奈川県生まれ。
EXPG 横浜校出身。ビートボックス、ラップ、ダンスが武器。
- ◆JIMMY(ジミー) 2000年(平12)2月26日、愛知県生まれ。
EXPG 名古屋校出身。父ナイジェリア人。「VOCAL BATTLE AUDITION5」ラップ部門ファイナリスト。
- ◆小波津志(こはつ・こころ) 2000年(平12)11月9日、沖縄県生まれ。
EXPG 沖縄校出身。メインボーカルと華麗なダンスで変幻自在に魅了。
- ◆半田龍臣(はんだ・りゅうしん) 2001年(平13)12月1日、神奈川県生まれ。
EXPG 東京校出身。ファニーなダンススタイルと、太い声のラップのギャップが魅力。
- ◆WEESA(イーサ) 2004年(平16)2月26日、愛知県生まれ。
EXPG 名古屋校出身。父がモロッコ人、母が韓国人。最年少もボーカルで高い存在感。